

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	現代地理学
科目基礎情報						
科目番号	2021-767		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	新機能材料工学コース		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用しない。適宜、プリントを配付する。					
担当教員	佐藤 崇徳					
到達目標						
1. 地理的な見方・考え方や地理情報の重要性を理解し、自分なりに考えて説明できる。 2. インドアワークとフィールドワークとによって地域を読み解く地理的手法を修得し、実践できる。 3. 地域社会や世界が抱える課題に対して技術がどのように対処していくべきかについて、複数の例を挙げて述べるができる。（A1-4）						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. 地理的な見方・考え方や地理情報の重要性を理解し、自分なりに考えて説明できる。		□地理的な見方・考え方や地理情報の重要性について、授業で提示された事例以外の内容も盛り込んで、自分なりに説明できる。	□地理的な見方・考え方や地理情報の重要性について説明できる。		□地理的な見方・考え方や地理情報の重要性について説明できない。	
2. インドアワークとフィールドワークとによって地域を読み解く地理的手法を修得し、実践できる。		□地理的事象についてフィールドワークや室内での調査研究活動を行い、その成果について十分な考察を含めてレポートにまとめることができる。	□地理的事象についてフィールドワークや室内での調査研究活動を行い、その成果をレポートにまとめることができる。		□地理的事象についてフィールドワークや室内での調査研究活動の成果をレポートにまとめることができない。	
3. 地域社会や世界が抱える課題に対して技術がどのように対処していくべきかについて、複数の例を挙げて述べるができる。（A1-4）		□地域社会や世界が抱える地理的課題の解決に向けて技術がどのように貢献できるかについて、複数の例を挙げて地理的観点から十分に考察を述べるができる。	□地域社会や世界が抱える地理的課題の解決に向けて技術がどのように貢献できるかについて、複数の例を挙げて述べる、または、一つの例を挙げて地理的観点から十分に考察を述べるができる。		□地域社会や世界が抱える地理的課題の解決に向けて技術がどのように貢献できるかについて、例を挙げて述べることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
【プログラム学習・教育目標】 A 実践指針 (A1) 実践指針のレベル (A1-4)						
教育方法等						
概要	本授業科目は、社会事象に対する地理的な見方・考え方によるアプローチの重要性・社会的有用性についての認識を深め、グローバル化が進む現代社会について地理的な観点から考察するとともに、それをふまえて身近な地域で実践することができる能力を養うことを目的とする。地理的手法を具現化したものとしての地図を中心に、地理的情報に関する基礎知識および扱い方について解説するほか、授業にフィールドワークを取り入れ、地域の実情を具体的に把握する手法を実践的に修得できるようにする。また、グローバル化が進んでいる現代における地理的課題についての関心を高め、国際社会に生きる人間としての自覚と資質を養うことを目指す。					
授業の進め方・方法	授業は教室での講義および調査・地図作業・議論・発表などの活動と野外での巡検（フィールドワーク）から構成される。巡検は、まとまった時間が必要となるため、通常の授業時間割の時間内ではなく、授業がない休日を利用して実施する予定である。実施日時については、授業開始後に受講生の都合をふまえて決定する。					
注意点	評価については、評価割合に従って行います。ただし、適宜再試や追加課題を課し、加点することがあります。学生が主体的に参加する授業（発表、議論、共同作業等）を計画していますが、年度による受講者数の変動が著しいため、受講者数・出席者数によっては計画した授業方法の実施が困難な場合もあり、状況に応じて授業内容・方法を計画から大幅に変更する場合があります。					
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		本授業科目の目的・目標を理解できる。	
		2週	地域を知る／考える（１）地域統計		地域の実態を知る手段として各種の統計資料やウェブ上での統計情報サービス（RESASなど）が利用可能であることを理解できる。	
		3週	地域を知る／考える（２）発表・議論		ひとつの地方自治体を取り上げ、統計資料をもとにその地域の現状と課題を分析し、発表・議論することができる。	
		4週	地域景観を読み解く（１）巡検事前学習		三島市を事例に、地域景観を形成する自然環境、歴史、人間活動の地域的特徴および相互の関係を知識として理解できる。	
		5週	地域景観を読み解く（２）巡検		三島市内の巡検を通して、地域景観を形成する自然環境、歴史、人間活動の地域的特徴および相互の関係を具体的に理解できる。	
		6週	〃		〃	
		7週	地域景観を読み解く（３）巡検事後学習		三島市内の巡検での見学内容をふまえて、地域景観を形成する自然環境、歴史、人間活動の地域的特徴および相互の関係を整理することができる。	
		8週	地域の現状と課題をとらえる（１）巡検事前学習		裾野市を事例に、地方都市における現状と課題を知識として理解できる。	
	4thQ	9週	地域の現状と課題をとらえる（２）巡検計画立案		裾野市内で巡検を行うにあたって、何を目的にどこで何を見ればよいか、巡検コース等の立案が自分たちでできる。	
		10週	地域の現状と課題をとらえる（３）巡検		裾野市内の巡検を通して、地域の現状を具体的に理解し、どのような課題が存在するか気づくことができる。	

		11週	〃	〃
		12週	地域の現状と課題をとらえる（４）巡検事後学習	裾野市内の巡検での見学内容をふまえて、地域の現状と課題を整理して理解し、地域の将来に向けての提言をすることができる。
		13週	地域の現状と課題をとらえる（５）都市と交通	裾野市内の巡検で見出した地域の課題を、現代の日本社会で広く存在している課題のなかに位置づけてとらえることができる。
		14週	地理情報と社会	デジタル化が進む地図への理解を深め、地図をもとに考える地理学的手法の有益性を理解できる。
		15週	まとめ	現代社会における地理的な考え方や地理情報の重要性およびそれと技術との関わりについて、自分の考えを発表し、議論することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表・課題	合計
総合評価割合	0	100	100
1. 地理的な見方・考え方や地理情報の重要性を理解し、自分なりに考えて説明できる。	0	40	40
2. インドアワークとフィールドワークとによって地域を読み解く地理的手法を修得し、実践できる。	0	40	40
3. 地域社会や世界が抱える課題に対して技術がどのように対処していくべきかについて、複数の例を挙げて述べることができる。 (A1-4)	0	20	20